与話情浮名
よこぐし
六編
上
榮久堂板

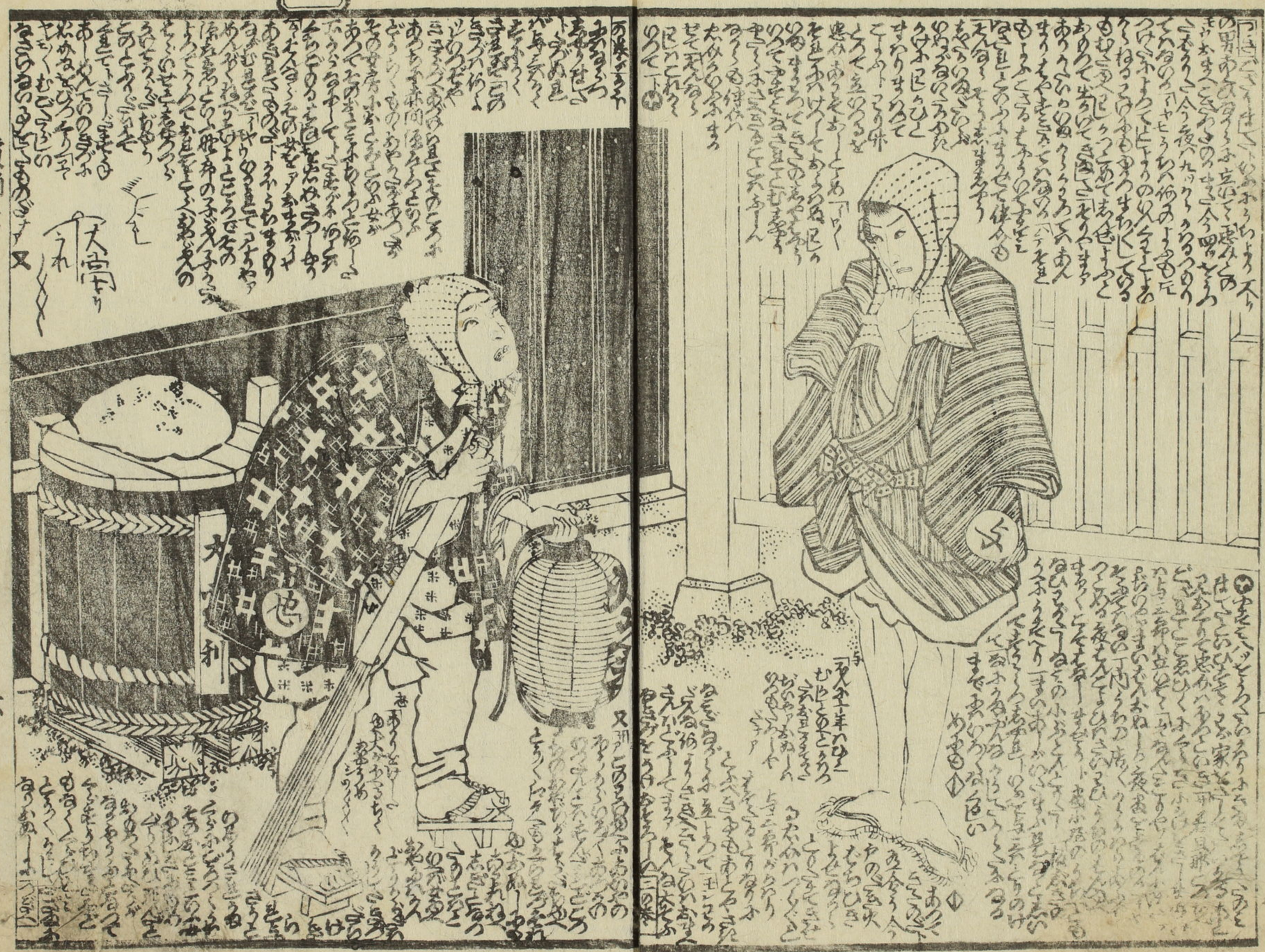
本居情字名の
考六梅上冊

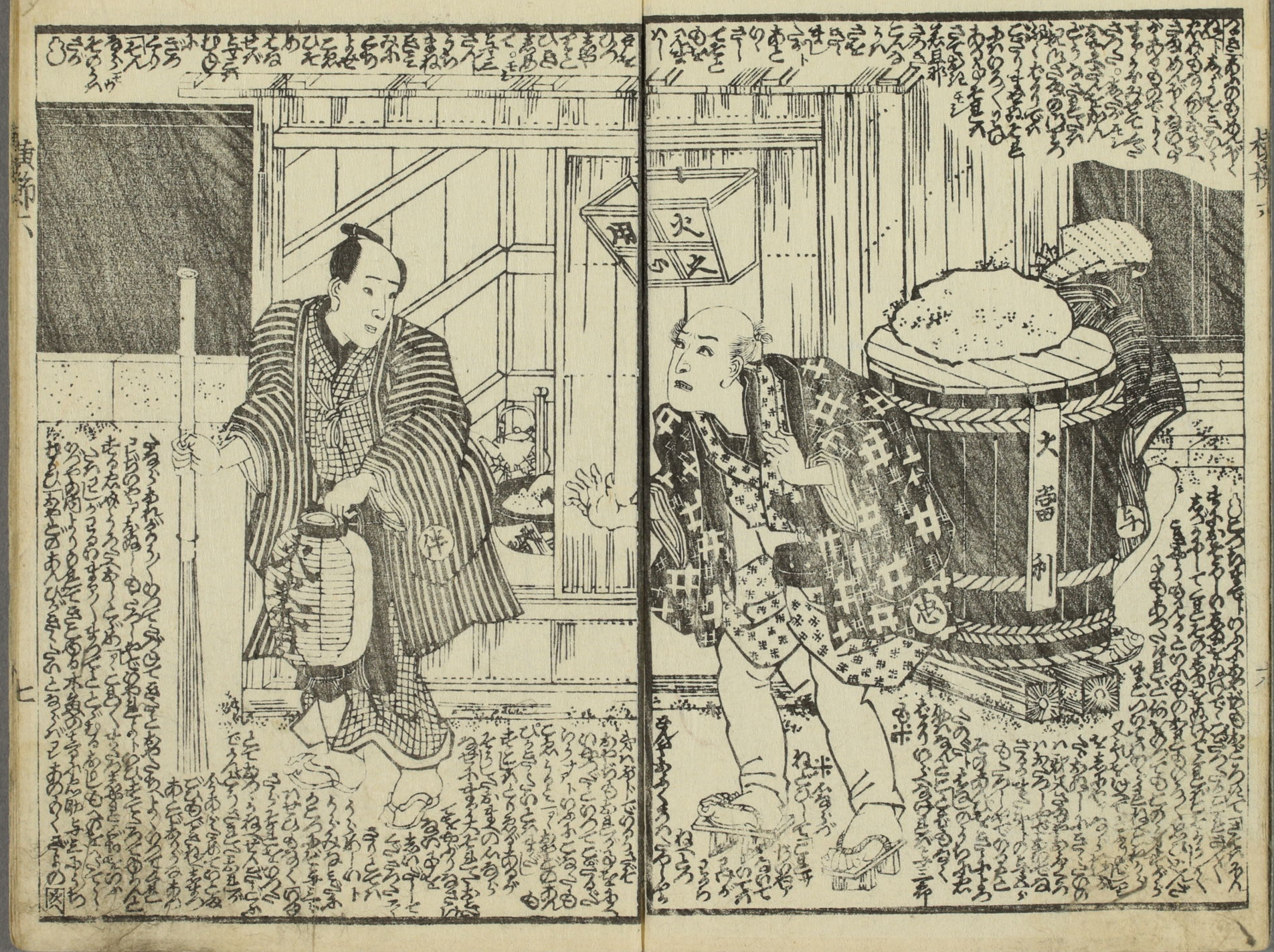
此草紙の作者雀郎主人は彼一廓の園中に芳き薫を含む今を
をるべと作名の好文木は菅家の愛樹梅田舎は千束の塘れ
そどちらと軒端の茅も隠家の茂唯が真土の碑もそれと聞あるは其中
梅ふよく似く真白な序の半葉を埋州せよとをきつけられいな心間もなく
丁雅をまくをと恵組をとるふきられ子三が島紛失ら古郷を忘ろう親の
情と忠助の笠はよくく女人目の黄人火の用心と吹廻し合れふうを神が
浦観音久治が栖と名よく男の義理を立花の宇事雲のくで不可思議
の縁もつるぬぬぬぬの伐まて疵も愈るぶ子の良茅の功ふひくく
よくきくめ書あられて御覧のるど最二映れ子ちなく〜ト序文の
序の字を板下の序ふ少〜よくぶ

乙卯新鐫　筆耕舎玄魚戯述

赤間錦倉
越後ゑちご
南駅の旅
泊み酒妾
をりよう
伊圖
黒川
次郎蔵
上ハ間
源左衛門
加賀屋
和四郎
相生

けんのみ
あまき
ぬくもり
梅四郎
小道具屋
長九郎
向疵の与三
観音久次
久次女房
お空





そばうどん
そばや

國芳画
好文作

下の巻

榮久堂刊行藏板略目

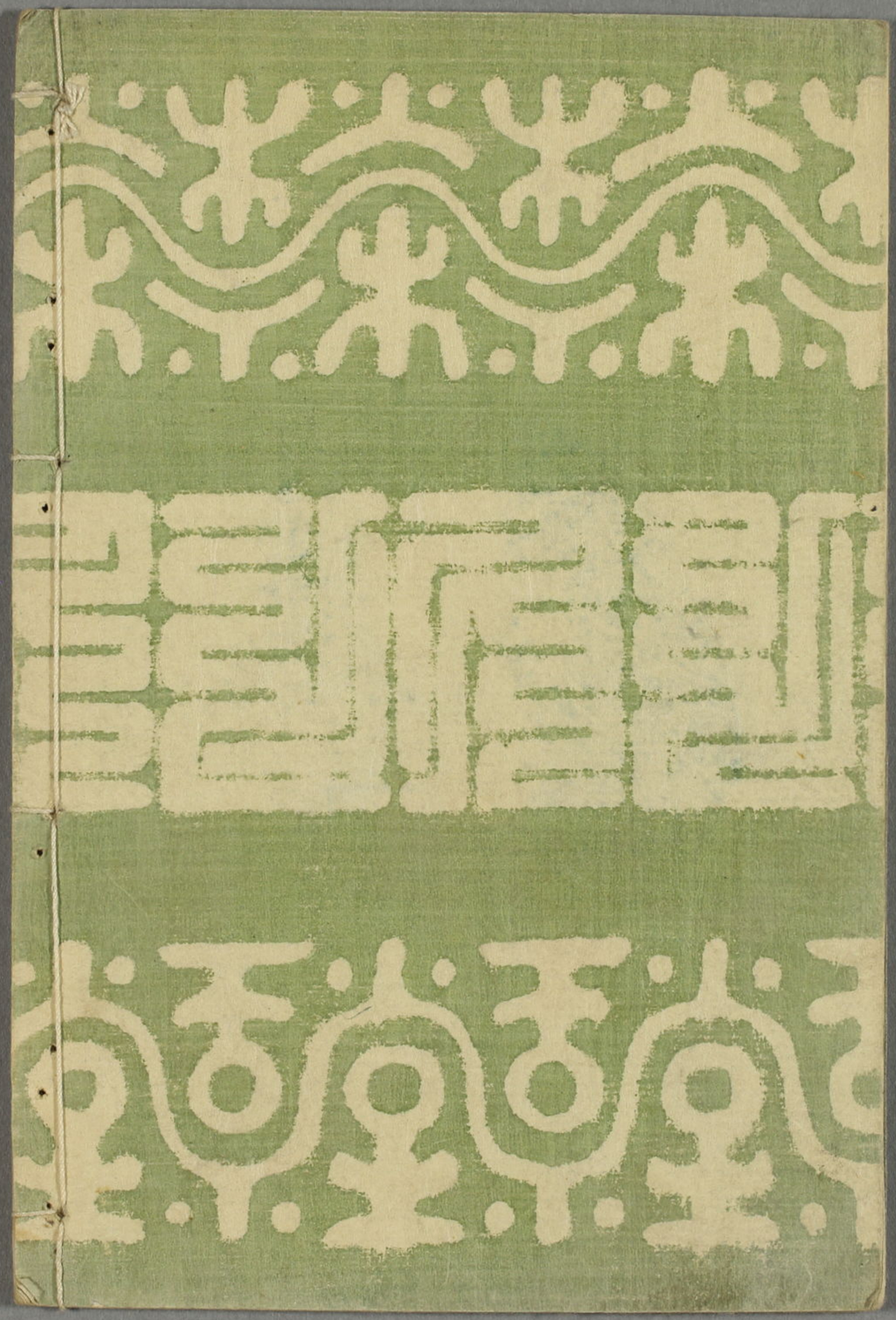
薄紫宇治曙 七編 八編 九編 笠亭仙果作 一壽齋國貞画

与話情浮名横櫛 六編 七編 大尾 棋田舍好文作 一勇齋國芳画

菜種の花双蝶々 二冊 仙果作 国輝画

御伽譚博多新織 五編 六編 七編 棋田舍好文作 一勇齋國芳画

桃太郎鬼島記 椿説鬼魅談語 初編より五編まで 爲永春水作 一雄齋國輝画

仙女香 一包 四十八銭 京 坂本氏

美玄香